



# RPCA 製品審査基準 適合証明書

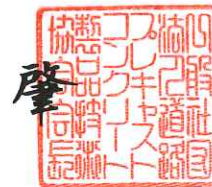
証明書番号 II 2 2 - R L 2 9 号

株式会社ヤマウ 殿

貴社の「アイディアルウォール」は、当協会道路プレキャストコンクリート工技術審査委員会における審査の結果、下記のとおりRPCA製品審査基準に適合したことを証明します。

一般社団法人 道路プレキャストコンクリート製品技術協会

会 長 棚 橋



記

## 1. 基本事項

製 品 名 : アイディアルウォール

製品区分 : II群製品

L型擁壁 (基本型)

証明書有効期間 : 2023年4月1日~2026年3月31日

2.申請区分

品種区分		申請区分	
製品区分	II群	重要度	重要度1
大分類	擁壁工	要求性能;常時	性能1
中分類	L型擁壁	要求性能;地震時	地震時検討:L=性能1、L2=性能2
小分類	基本型	規格の範囲	H= 600mm~2000mm
申請区分	製II-擁L-1	設置環境・条件	

3.製品審査結果

中項目	審査項目及び審査基準			判定	摘要条件	
	小項目	審査基準				
荷重	自重	単位体積重量	裏込め土 鉄筋コンクリート	土質に合わせた単位体積重量であること。 $\gamma_c=24.5\text{kN/m}^3$	clear	
		土圧	主働土圧	自重の考え方	躯体重量+底版上の土量 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [16] 3.2.2 自重)	clear
				土圧式	試行くさび法により算定されていること。 (道路土工擁壁工指針 P100,101の式)	clear
	土圧の鉛直成分			試行くさび法により算定されていること。 (道路土工擁壁工指針 P100,101の式)	clear	
	安定計算		土圧の作用高さ	試行くさび法により算定されていること。 (道路土工擁壁工指針 P100,101の式)	clear	
	構造計算	土圧の作用面	土圧作用面は、かかと版の先端から鉛直に伸ばした仮想背面であること。	clear		
		壁面摩擦角	土圧作用面は、かかと版の先端から鉛直に伸ばした仮想背面であること。	clear		
	載荷重	荷重	土圧の作用面	土圧作用面は、たて壁の背面であること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [57]土圧)	clear	
		載荷方法	壁面摩擦角	土圧作用面は、たて壁の背面であること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [57]土圧)	clear	
	地震荷重	設計水平震度	荷重	車道は $10\text{kN/m}^2$ 、歩道は $3.5\text{kN/m}^2$ であること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [17] 載荷重)	clear	
	荷重の組合せ	常時の作用 自重+載荷重+土圧	載荷方法	車道は $10\text{kN/m}^2$ 、歩道は $3.5\text{kN/m}^2$ であること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [17] 載荷重)	clear	
	材料及び設計諸定数	コンクリート	設計基準強度	設計水平震度は適切であること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [20] 解表5-1)	clear	
鉄筋		常時の作用 自重+地震の影響+土圧	道路PCa指針 第4編 擁壁工編 [15] 3.2.1 一般及び3.2 設計に用いる荷重	clear		
裏込め土		地震時の作用 自重+地震の影響+土圧	道路PCa指針 第4編 擁壁工編 [15] 3.2.1 一般及び3.2 設計に用いる荷重	clear		
土の単位体積重量 $\gamma$		設計基準強度	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 以上であること。	clear		
内部摩擦角 $\phi$ 、土質		鉄筋	SD295、SD345を標準とすること。	clear		
基礎地盤の土質定数		裏込め土	土質定数は道路土工擁壁工指針の値とすること。	clear		
基礎地盤の土質定数		土の単位体積重量 $\gamma$	C2条件 $\gamma=19\text{kN/m}^3$ 、 $\phi=30^\circ$ (砂質土)	clear		
基礎地盤の許容支持力度		内部摩擦角 $\phi$ 、土質	C3条件 $\gamma=18\text{kN/m}^3$ 、 $\phi=25^\circ$ (粘性土) の組み合わせ	clear		
必要地盤耐力が計算されていること。		基礎地盤の土質定数	$\mu = \tan \phi$ 及び道路土工-擁壁工指針解表4-9による。 $\mu=0.6$ 以下	clear		
設計計算に用いるヤング係数		基礎地盤の許容支持力度	必要地盤耐力が計算されていること。	clear		
割増し係数		設計計算に用いるヤング係数	鉄筋コンクリート部材の応力度の計算に用いるヤング係数比 $n$ は15とする。 (道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [4] 2.3 設計計算に用いるヤング係数)	clear		
許容応力度		コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	割増し係数	地震時等の必要に応じた係数が使用されていること。 (道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [46] 3.1 一般)	clear	
	コンクリートの許容せん断応力度	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [6] 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear		
	鉄筋の許容応力度	コンクリートの許容せん断応力度	道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [6] 第3章 道路PCa製品に用いる材料の許容応力度に基本準拠していること。	clear		
安定性の照査	滑動	安全率	常時： $Fa \geq 1.5$ 、地震時： $Fa \geq 1.2$	clear		
	転倒	合力の作用位置	常時： $B/6$ 、地震時： $B/3$	clear		
	支持力	許容支持力度	許容支持力に妥当性があること。 必要地耐力が表示されていること。	clear		
部材の安全性の照査	構造耐力	たて壁	地盤反力	許容支持力に妥当性があること。 必要地耐力が表示されていること。	clear	
			曲げ応力度	許容応力度法によること。	clear	
			鉄筋応力度	発生応力度が許容応力度以下であること。	clear	
		せん断応力度	発生応力度が許容応力度以下であること。	clear		
		底版	曲げ応力度	発生応力度が許容応力度以下であること。	clear	
			鉄筋応力度	発生応力度が許容応力度以下であること。	clear	
	せん断応力度		発生応力度が許容応力度以下であること。	clear		
耐久性	鉄筋のかぶり	コンクリート強度 $35\text{N/mm}^2$ 以上の場合、 $25\text{mm}$ かつ鉄筋径以上 コンクリート強度 $30\text{N/mm}^2$ 以上 $35\text{N/mm}^2$ 未満の場合、 $32\text{mm}$ かつ鉄筋径以上	clear			
構造細目	鉄筋のあき	粗骨材の最大寸法 $5/4$ 以上かつ鉄筋径以上であること。	clear			
	配力鉄筋	主鉄筋の $1/6$ 以上であること。	clear			
	鉄筋のフック及び鉄筋の曲げ形状	道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [14]~[18] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目	clear			
	鉄筋の定着	道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [14]~[18] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目	clear			
	鉄筋の継手	継手が1カ所に集中した場合の重ね継手長 $l_a = \sigma_{sa} \times \phi / 4 \tau_{oa}$ 以上とする。 (道路PCa工指針 第2編 コンクリート編 [14]~[18] 鉄筋コンクリート製の道路PCa製品の構造細目)	clear			
	最小鉄筋量	部材断面積の $0.15\%$ 以上であること。	clear			
	最大鉄筋量	有効断面積の $2.0\%$ 以下であること。 $2\%$ を超えた場合は、釣合い鉄筋量以下とする。	clear			
	圧縮鉄筋	主鉄筋の $1/6$ 以上であること。	clear			
水抜き孔の径、配置状況	擁壁に $2\sim 3\text{m}^2$ に1カ所の割合で内径 $5\sim 10\text{cm}$ 程度水抜き穴を設置していること。	clear				

3.製品審査結果

		審査項目及び審査基準		判定	摘要条件
中項目	小項目	審査基準			
その他の仕様	擁壁の根入れ	根入れDf	底版上面から50cm以上確保されていること。	clear	
	基礎コンクリート	設計基準強度	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [60] 7.2.3 配置上の留意点及び [64] (3)基礎の検討)	clear	
		厚さ	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [60] 7.2.3 配置上の留意点及び [64] (3)基礎の検討)	clear	
	基礎材	使用材料	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [60] 7.2.3 配置上の留意点及び [64] (3)基礎の検討)	clear	
		厚さ	設計・施工マニュアル等に仕様の記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [60] 7.2.3 配置上の留意点及び [64] (3)基礎の検討)	clear	
	排水工	排水工の形状	道路PCa工指針 第4編 擁壁工 3.7排水工 [28]	clear	
	設計条件以外での対応		設計要領に対応手順の記述があること。	clear	
	異形品の対応	底版斜切り・開口等	設計要領に処理方法の記述があること。	clear	
施工	施工マニュアル	施工の手順	施工マニュアル等に記述、仕様があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [68]~[72] 7.5 施工方法及施工上の留意点)	clear	
		施工上の留意点	施工マニュアル等に記述、仕様があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [68]~[72] 7.5 施工方法及施工上の留意点)	clear	
		施工上の適用条件	施工マニュアル等に記述、仕様があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [68]~[72] 7.5 施工方法及施工上の留意点)	clear	
	施工勾配		5%以下	clear	
製品の品質	外観	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]~[17] 第3章 検査)	clear	
	形状寸法	検査頻度・方法、測定箇所、形状寸法及び寸法許容差、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]~[17] 第3章 検査)	clear	
	コンクリートの圧縮強度	試験頻度・方法、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]~[17] 第3章 検査)	clear	
	曲げひび割れ耐力	試験頻度・方法、載荷荷重、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、製品の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [16]~[17] 第3章 検査)	clear	
材料の品質	品質	使用する材料の品質	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]~[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	
	受入検査	検査頻度・方法・項目、判定基準、不合格の処置	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]~[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	
	貯蔵	貯蔵の管理方法	製造仕様書に、使用する全材料を対象に、材料の品質毎に定めた項目についての記述があること。 (道路PCa工指針 第4編 擁壁工編 [66]~[67] 第7章 L型擁壁 7.4 製品検査 道路PCa工指針 第3編 製造編 [5]~[9] 第2章 道路PCa製品の製造 2.1 製造方法 2.1.2 材料の受入と貯蔵)	clear	

審査委員会  
委員長

宮川 豊

